

## 第 21 回 新型コロナウイルス 今後の終息の可能性について（3月18日水曜日）

こんにちは。

長崎大学人、河野茂です。

今日は森田公一熱帯医学研究所長との最後の対談です。

今後、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行がどうなるのかは全く読めません。予想できるシナリオは3つあると思います。

- 1) SARS（重症呼吸器症候群）の様に完全な封じ込めに成功する、
- 2) MERS（中東呼吸器症候群）の様にウイルスが身近な動物に入り込み時折流行が発生する、
- 3) インフルエンザの様にヒト社会に定着し季節性に流行が起きる。

一般的に新しいヒトの感染症が発生すると、ヒトの集団はその病原体に対する特異的な免疫を持ちません。効果的な方策をとらない場合には時にはその感染症は一定の割合のヒトが感染するまで拡大をしたのち、ひと段落します。新型インフルエンザがその例です。今回の新型コロナウイルスにも我々は免疫を持たないので、このまま放置すれば確実に世界中に広がりパンデミックの状態となります。

どのような対策が可能なのか？SARSを例にとれば、この病気は重症者が感染源になったという特徴がありました。重症肺炎の患者、接触者を隔離することで、冬に出現したSARSは6月末には収束しています。長崎大学が拠点を置くベトナムでは大きな被害がでましたが、いち早く国家的な対応をしてPCR法などが整備される前の4月初めにはすでに封じ込めに成功していました。一方、今回の新型コロナウイルス感染では無症状、軽症の感染者がウイルスを排出するので、敵が見えない状態で戦いを続けている状態です。頼りになるのはPCRだけという現状です。このため、SARSで使った戦術だけでは負けてしまいます。武漢の混乱と医療崩壊は対岸の火事ではありません。

しかし悪いニュースばかりではありません。2月末にWHOが公開した中国での調査報告（55,924症例）によると中国での流行は1月末にピークを迎え、2月中旬から新規患者発生は大幅に減少しています。

これは中国政府が実施した10を超える封じ込め施策に一定の効果があるという証拠です。

PCR 検査の充実と患者、濃厚接触者のトレースと隔離、集会の禁止、休校など、考えうる施策はすべて実施したという印象です。その結果、患者は激減しています。日本の状況も感染拡大の方向に進んでいる今、実施可能な施策は取り入れて感染終息を目指す重要な時期と思います。

コロナウイルスは一般的に気温が上がれば上がるほどウイルスが不安定になってくるという特徴もありますし、夏になると窓を開けて換気しやすい環境になりますので、夏場になると伝搬速度は鈍るのではないのかという考えもあります。まだ、封じ込め対策を諦める時ではないと思います。

これから 4 月になり本学にも新入生が入学してきます。長崎大学としても、国内外の情報をすばやく収集して、通常の教育・研究を維持するため臨機応変に対策をとることが必要だと思います。